

# オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第59号

2010年4月26日

<http://pweb.cc.sophia.ac.jp/s-yuga/asaj2/>

## 1. 豪日交流基金助成 2010年春学期公開講座 シンポジウム「グローバリゼーションとメディア：オーストラリアとアジア」のお知らせ

本シンポジウムは急速に多様化する東アジア社会のなかで、メディアが果たす役割を考えることを目的とします。オーストラリアの多文化社会を代表する多言語放送 SBS 研究の第一人者であるニューサウスウェールズ大学の Gay Hawkins 教授（現在東京大学アメリカ太平洋地域研究センター客員教授）ほか、エスニシティとメディアを研究する内外の研究者をお招きし、参加者とともに、多様な社会のなかでメディア、文化のあり方を考えたいと思います。多数のご参加を期待します。

日時：2010年5月29日（土） 13:00 17:50

場所：上智大学中央図書館（L-911） 土曜日なので正門からお入りください。

[http://www.sophia.ac.jp/J/sogo.nsf/Content/campusmap\\_yotsuya](http://www.sophia.ac.jp/J/sogo.nsf/Content/campusmap_yotsuya)

基調講演「SBS とオーストラリア社会」 Gay Hawkins（ニューサウスウェールズ大学）

報告1 「多文化社会とメディアの役割」 Rodney Tiffen（シドニー大学）

報告2 事例報告 / 討論 白水繁彦（駒澤大学）

詳細は <http://pweb.cc.sophia.ac.jp/s-yuga/asaj2/> にてお知らせします。

連絡先：鈴木雄雅（上智大学） Email: HAF00025@nifty.ne.jp

## 2. 第21回全国研究大会（2010年度総会）のご案内

開催日：2009年6月12日（土）・13日（日）

会場：12日（土）桜の聖母短期大学（〒960-8585 福島県福島市花園町3-6）

アクセス：<http://www.sakuranoseibo.jp/index.shtml>

13日（日）福島大学（〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地）

アクセス：<http://www.fukushima-u.ac.jp/global/access/index.html>

交通アクセスについては、6頁もご参照ください。

プログラムは変更される可能性があります。詳細は学会ウェブサイトでご確認下さい。

6月12日（土） 第1日目 会場：桜の聖母短期大学

9:00 - 12:00 理事会（マルグリット館2階 212会議室）

12:30 受付開始（マルグリット館5階 中講義室）

13:00 開会 司会：飯笹佐代子（総合研究開発機構）

開会挨拶：関根政美（慶應義塾大学）オーストラリア学会代表理事

13:10 - 14:40 基調講演（マルグリット館5階 中講義室）

“The Role of Media in Multicultural Australia: pluralizing national identity”

Gay Hawkins（ニューサウスウェールズ大学教授

/ 東京大学アメリカ太平洋地域研究センター客員教授）

14:40 - 14:55 休憩

14:55 - 18:00 特別企画：日豪をつなぐ記憶の渦 第二次世界大戦をめぐって

司会：村上雄一（福島大学）

映画上映『豪日に架ける = 愛の鉄道』（マルグリット館5階 中講義室）

「特殊敵国人収容所」（現マルグリット・ブルジョワセンター[旧ノートルダム修道院]）見学・講演

講師：紺野滋（福島民友新聞社論説委員）

19:00 - 21:00 懇親会 会場：「ki-ichigo」（福島駅西口コラッセふくしま12階）

6月13日(日) 第2日目 会場：福島大学行政政策学類棟

9:30 受付開始(2階)

10:00 - 12:00 一般個別研究報告&ワークショップ

【第 分科会】(2階演習室) 司会：鎌田真弓(名古屋商科大学)

「越境する知識人と液状化する地域研究：オーストラリアにおける日本研究の事例から」

川端浩平(関西学院大学)

「豪日姉妹都市交流の現状と展望：ヴィクトリア州内の自治体の事例」

堤純(愛媛大学) / Ross Mouer(モナシュ大学)

【第 分科会】(2階大会議室) 司会：鈴木雄雅(上智大学)

「観光広報とケアンズにみるオーストラリアのイメージ戦略」小野塚和人(一橋大学)

「豪州における日本商社の企業活動：1930年代前後の日本商社の羊毛貿易を中心に」

秋谷紀男(明治大学)

「オーストラリアの映像政策の現状と課題」浅利光昭(メディア開発綜研)

【第 分科会】(3階視聴覚教室) 司会：塩原良和(慶應義塾大学)

ワークショップ：多文化社会におけるシネリテラシーの可能性

映画上映『映画をつくる子どもたち～オーストラリアの挑戦』と日本での実践例報告

リプライ：Jane Mills(チャールズ・スタート大学)

12:00 - 13:00 昼食休憩/理事会(3階中会議室)

13:00 - 13:30 総会(2階大会議室)

13:40 - 16:00 シンポジウム(2階大会議室) 司会：塩原良和(慶應義塾大学)

オーストラリアにおけるシネリテラシー教育とその日本社会への示唆

報告：Jane Mills(チャールズ・スタート大学)

千葉茂樹(日本映画学校副校長)

佐藤憲吉(NPO法人シャローム理事)

コメンテータ：青木麻衣子(北海道大学)

宿泊先：恐れ入りますが、宿泊は各自で確保願います。

(参考：福島市観光物産協会 <http://www.f-kankou.jp/stay/index.htm>)

昼食：日曜日の昼食につきましては、同封の出欠返信用はがきにてお弁当(800円)の予約を承ります。代金は当日申し受けます。なおJR金谷川駅周辺にコンビニがあります。

出欠：全国研究大会参加の有無にかかわらず、同封の返信用葉書に必要事項をお書き込みのうえ、6月5日(土)までにご投函ください。

懇親会：懇親会費は5,000円程度を予定していますが、多少変動することがあるかもしれませんので、その節はご容赦ください。懇親会費は当日大会受付で申し受けます。なお、懇親会への参加は必ず同封の返信用はがきでお知らせくださるようお願いいたします。



2010 年度オーストラリア学会  
基調講演・特別企画・シンポジウム概要

**基調講演：The Role of Media in Multicultural Australia: pluralizing national identity**

**Professor Gay Hawkins (University of New South Wales / University of Tokyo)**

Since the mid 1970s Australia has been defined as a multicultural nation. Numerous policies have been implemented to recognise and manage cultural diversity and to pluralize national identity. This paper explores the key role of public media in these transformations. Its primary focus will be the Special Broadcasting Service (SBS), the world's only multicultural public service broadcaster. Set up by the Whitlam Labor government in 1975, SBS's objective was, and still is, to cater to the special communication needs of minorities and to promote understanding of diversity amongst *all* Australians. Three key aspects of SBS will be discussed: the different forms of multiculturalism that it has developed, the role of media in developing more inclusive modes of democracy and the relationship between nationalism and cosmopolitanism. The paper will use various examples of SBS television programming to illustrate its key points.

**特別企画：日豪をつなぐ記憶の渦 第二次世界大戦をめぐって**

この特別企画では、「福島」をキーワードに、日豪をつなぐ記憶の渦をテーマに見ていく。2006年度の全国大会シンポジウム「太平洋戦争をめぐる歴史認識と日豪関係」では、戦争の記憶について、日本ではかつて両国が交戦国であったことをすら想起しないという、非対称性が指摘された。福島市出身の映画監督、千葉茂樹氏のドキュメンタリー映画『豪日に架ける = 愛の鉄道』は、我々にその非対称性を改めて喚起させてくれる。そして、会場に隣接し、戦時中、「特殊敵国人収容所」として使用された旧ノートルダム修道院（現マルグリット・ブルジョワセンター）に秘められた日豪をつなぐ記憶の渦を知ることで、その認識はさらに深まる。当日は、映画上映後、『福島にあった秘められた抑留所』（歴史春秋社、1991）の著作がある福島民友新聞社の紺野滋氏に、旧ノートルダム修道院を通じた福島とオーストラリアの知られざる繋がりについて語っていただく。（村上雄一）

**シンポジウム：オーストラリアにおけるシネリテラシー教育とその日本社会への示唆**

「シネリテラシー教育」とは、映像を深く読み解き・書く（＝映像制作）の過程をつうじて、子どもたちの読み書き能力、コミュニケーション能力、学習意欲の向上を目指す教育実践である。近年、オーストラリアでは子どものリテラシーの向上が課題とされている。しかし、現在議論されているナショナル・カリキュラムを含め、教育政策におけるリテラシー概念は読み書き能力、とりわけ移民・先住民族の英語能力の向上という意味で狭く理解されがちである。それに対し、ニューサウスウェールズ州において2001年から実践されているシネリテラシー教育はリテラシー概念を再解釈し、その可能性を広げる試みとしても注目に値する。本シンポジウムでは、オーストラリアのシネリテラシー教育を主導してきたJane Mills教授と、日本におけるシネリテラシー教育の推進者である映画監督の千葉茂樹氏、福島県を拠点にシネリテラシー教育を実践する佐藤憲吉氏、そしてオーストラリアの言語教育政策に詳しい青木麻衣子氏を招き、オーストラリアと日本におけるシネリテラシー教育の現状と可能性を議論する。（塩原良和）

2010 年度オーストラリア学会全国研究大会  
一般個別研究報告者および報告要旨

【第 分科会】

1) 川端浩平(関西学院大学)「越境する知識人と液状化する地域研究：オーストラリアにおける日本研究の事例から」

地域研究は、大国主導の植民地主義や民主化政策、軍事的な国際戦略とともに発展してきた経緯がある。特定の地域への眼差しには、常に国際情勢の変化や大国の思惑が色濃く反映されている。例えば、第二次世界大戦後のアメリカの日本研究(Japanese Studies)では、第二次世界大戦中には敵国として構築された日本のイメージを刷新することが意図された。1970年代後半に、そのような日本研究に対して異を唱え、オルタナティブを示したのがオーストラリアの日本研究だった。アメリカの主流派日本研究の枠組みを前提とした日本人論を批判するというかたちで本質化された日本の地域像に異論が唱えられた。本報告では、オーストラリアを拠点として越境する知識人の研究方法と視座を検討することを通じて、液状化する地域研究(Liquid Area Studies)の可能性を模索したい。

2) 堤純(愛媛大学) / Ross Mouer(モナシュ大学)「豪日姉妹都市交流の現状と展望：ヴィクトリア州内の自治体の事例」

日本とオーストラリア間の姉妹都市交流を対象に、ヴィクトリア州内の自治体と日本の自治体間の姉妹都市交流を主な事例として、今後の交流の発展可能性について検討した。その際、オーストラリアの自治体側の視点に着目し、今後の展望について考察した。パートナー都市同士の個別の対応に終始しがちな姉妹都市交流において、将来的な経済交流の可能性や複数都市間のホームステイ連携の可能性が課題であることがわかった。

【第 分科会】

1) 小野塚和人(一橋大学)「観光広報とケアンズにみるオーストラリアのイメージ戦略」

北東部に位置するケアンズは、単なる農村から国際的な観光地へと急速な変化を遂げた。日本資本によるケアンズの「発見」と直接投資は、観光開発に決定的な役割を果たした。急速な投資と無国籍的なリゾート地の建設に対し、一部市民から自らの空間を取り戻すための反対運動や論争が発生する。町おこしは一定の成功を収めたが、「地域活性への万能薬」の効き目は10年足らずでかげりを見せ始めた。ケアンズの行く末を問い、さらに、イメージの裏側に潜むオーストラリアの実像を描き出す。

2) 秋谷紀男(明治大学)「豪州における日本商社の企業活動：1930年代前後の日本商社の羊毛貿易を中心に」

1936年5月、豪州は貿易転換政策にもとづく関税改正を行い、日本商品に対して輸入禁止の高関税を課した。これに対して、日本政府は同年6月に対豪通商擁護法を発動して対抗した。日豪通商関係の悪化は、日豪貿易に関連していた日本商社に大きな影響を及ぼした。1930年代前後において、豪州羊毛の輸入に関係していた日本商社は、兼松、三井物産、三菱、高島屋飯田、岩井、大倉、日本棉花などであった。本発表では、この時期の日本商社の羊毛貿易に関する企業活動を概観すると共に、とくに、高島屋飯田株式会社の豪州における企業活動についてふれてみたい。

3) 浅利光昭(メディア開発総研)「オーストラリアの映像政策の現状と課題」

オーストラリアの映像政策は、1970年代から本格化したファイナンス面での支援と、1958年に設立されたThe National Institute of Dramatic Art(NIDA)を中心とした人材育成を中心に行われ、一定の成果を収めた。一方でアジア諸国など同種の支援策の充実に伴い、オーストラリアの国際的優位性も薄れつつある。本報告は、2008年7月に新設されたスクリーン・オーストラリアを中心とした新たなオーストラリアの映像政策について現状と戦略性の面から考察するものである。

【第 分科会】ワークショップ：多文化社会におけるシネリテラシーの可能性

シネリテラシーをテーマにした2日目午後のシンポジウムのプレ企画として、ゲストであるJane Mills氏がニューサウスウェールズ州内各地の学校で実施した、多文化主義をテーマにしたシネリテラシー実践を記録した『映画をつくる子どもたち～オーストラリアの挑戦』(千葉茂樹監督作品)を鑑賞する。また日本国内における多文化共生をテーマにしたシネリテラシー実践の事例が報告され、Mills氏を交えて多文化主義・多文化共生を推進するうえで映像教育のもつ可能性について討論する。

大会報告者(海外在住者)への交通費助成について第13回全国研究大会から、報告される会員には海外在住者に限り、交通費助成(一律5万円)を行うことになっております(2001年12月18日第5期1回理事会決定)。発表申し込みの際に、その旨明記してください。理事会で申請案件を審議、決定いたします。

3. 豪日交流基金助成 追手門学院大学オーストラリア研究所主催・東京大学アメリカ太平洋研究センター共催 シンポジウム「オーストラリアの映像メディアにみる多文化主義」のお知らせ

日 時：2010年7月17日(土) 13:00~16:40

会 場：追手門学院大学 詳細はWEBをご覧ください。URL: <http://www.otemon.ac.jp/cas/>

基調講演1: 「スクリーンに見る多文化主義 - オーストラリアのメディアと文化多様性」 Gay Hawkins (ニューサウスウェールズ大学教授、東京大学客員教授) / コメント: 有吉宏之(追手門学院大学教授)

基調講演2: 「ジャパニーズ・ストーリーにおける文化相違の描写」 Felicity Collins (ラ・トロブ大学准教授) / コメント: 森島覚(追手門学院大学教授)・エリス俊子(東京大学教授)

申込み先: 追手門学院大学オーストラリア研究所

Tel: 072-641-9667 Fax: 072-643-9476 E-mail: [cas@office.otemon.ac.jp](mailto:cas@office.otemon.ac.jp)

4. 第10回地域研究会(関西)活動報告

報告: 南出眞助

標記の研究会が2010年3月13日(土) 14:00~17:00に追手門学院大学で行われました。発表は「ティウィ・アボリジニの社会におけるキョウダイの同居をめぐって」川崎和也(広島大学大学院・博士後期課程) 「オーストラリアと日本の高齢者介護施設におけるケアについての研究」三宅眞理(関西医科大学) はダーウィン北方のメルヴィル島・パサースト島を事例とし、成人すれば別居が原則の異性の兄弟姉妹が、政府支給の住宅に同居するケースについて、個人的事情や家賃負担関係等について精査したものでした。はオーストラリアの高齢者介護施設の現場を丹念に取材し、ケアの内容紹介だけではなく、入居者の1日の活動リズムをグラフ化して客観的な分析を加えたものでした。いずれの発表においても、生活の実態に即したリアルな話題が提供され、遠いオーストラリアのできごとではない身近な問題として、活発な議論を呼びました。司会は杉藤重信(椋山女学園大学)・藤川隆男(大阪大学)の両氏。参加者20名。

5. 第2回地域研究会(関東)活動報告

報告: 塩原良和

関東地域において2回目となる地域研究例会が、3月7日(日) 14時 17時に慶應義塾大学三田キャンパス106教室で開催されました。塩原良和(慶應義塾大学)が司会を担当し、2つの研究報告が行われました。太田裕子会員(早稲田大学)の「日本語教師の意味世界とその形成過程: ある教師のライフストーリーにみるオーストラリアの社会的政治的文脈」では、クイーンズランド州の日本語教師のライフストーリーの綿密な分析から、一人の教師の経験がオーストラリアの言語教育をめぐる社会的政治的文脈に深く根ざしていることと、そうした文脈のなかで教師個人が主体的に周囲の状況を意味づけ、行動しているありさまが浮き彫りにされました。松本浩欣会員(東京大学大学院/相模女子大学中・高等部)の「『校則』から見るオーストラリアの中等教育学校: エスノグラフィに基づく日豪比較の視点から」では、西オーストラリア州のカトリック中等教育学校における学校運営を事例に、日本の教育現場との比較が行われました。双方の報告に対し、伊井義人会員(藤女子大学)が詳細なコメント・質問を提起し、それをきっかけとして約20名の参加者を交えて活発な討論が行われました。なお本例会は豪日交流基金の助成を得て開催されました。

6. 2010年度AJF(豪日交流基金)助成金による公開講座 企画募集

以下の要項でAJF助成金による公開講座の企画を公募いたします。

\*開催時期と場所: 2010年10月から2011年8月までの間に、日本国内の大学や研究所などで行うこと。

\*企画の内容: 主に学会員や大学院生、さらに一般を対象とした、オーストラリアに関する公開講座で、オーストラリアから研究者・専門家を1名招請すること。

\*助成の対象となる経費: オーストラリアから招請する方(1名分)の国際航空運賃(エコノミークラス)、国内移動費、宿泊費、さらには討論者として国内の研究者(2名程度)の国内移動費、宿泊費を支給可能。その他、通訳料(逐次)ならびに原稿料も支給可能。なお、AJFの規程により謝金は支給できません。

対象事業の最終的な決定は6月の理事会で行いますが、AJFからの助成金申請の結果通達が9月以降となりますので、企画案の諾否は9月以降となります。また申請結果(助成の金額)によっては、当初の企画案の大幅な変更の必要も生じることもご承知おきください。ご関心のある方は、5月末までに、AJF助成金申請担当の永野隆行([tnagano@dokkyo.ac.jp](mailto:tnagano@dokkyo.ac.jp))までに、件名を「AJF助成金公開講座」として、簡単な企画案をお送りください。追ってこちらからご連絡させていただきます。

7. 『オーストラリア研究』投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けておりますが、次号24号に掲載する論文の投稿は8月末日が締め切りです。詳細は、学会ウェブサイト、もしくは23号掲載予定の「投稿要領」(2009年7月12日一部改定)をご覧ください(投稿先: 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16 海洋船舶ビル8階 CANPAN センター内 ACNet オーストラリア学会事務局担当 Tel 03-5251-3967 Fax 03-3504-3909 E-mail ac056-asaj@canpan.org 投稿先が変更されましたのでご注意ください)。また第12号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関係する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。締め切りは2010年10月30日(期日厳守)。編集作業の都合上、電子メール(またはテキストファイルを含んだFD)をご利用ください。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に必ず準ずる形でお送りください。

【諸届出/連絡先】 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16 海洋船舶ビル8階 CANPAN センター内  
AcNet オーストラリア学会事務局担当 Tel: 03-5251-3967 / Fax: 03-3504-3909  
E-mail: ac056-asaj@canpan.org

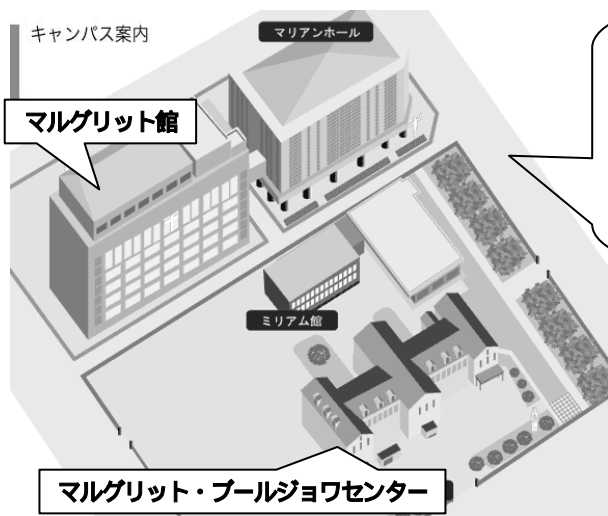
【オーストラリア学会事務局】

〒192-8508 東京都八王子市宮下町 476 杏林大学総合政策学部 橋本雄太郎研究室気付  
Tel: 042-691-0011(代) / Fax: 042-691-5899 / E-mail: hashimotobunch@mri.biglobe.ne.jp  
会費振込先: 00190-3-157063 加入口座名: オーストラリア学会

本会報は学会記録以外に、会員のご意見やご要望を掲載します。意見、著書、新刊、訳書、投稿など、ACNet事務局担当までお送りください。[紙面の制約上、速やかに掲載できない場合がありますことをご了承ください。]なお書評欄に掲載を希望される場合は、学会事務局宛に献本願います。[編集担当: 塩原良和(慶應義塾大学)]

【オーストラリア学会21回全国研究大会 会場のご案内】

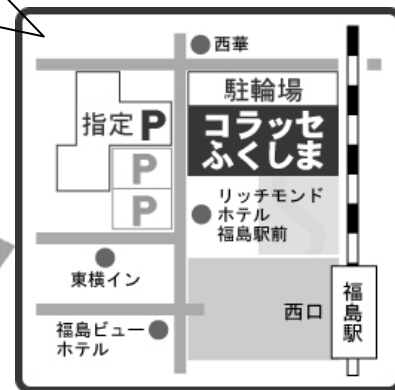
《第1日目》桜の聖母短期大学



市内循環バス 福島駅東口「9番乗場」乗車  
宮下町経由1コース又は曾根田経由2コース  
県文化センター入口下車 すぐ  
交通アクセス:  
<http://www.sakuranoseibo.jp/guidance/access.html>  
キャンパスマップ:  
<http://www.sakuranoseibo.jp/institution/index.html>

懇親会場: 「ki-ichigo」  
福島駅西口 コラッセふくしま 12階  
TEL: 024-536-6158  
JR福島駅(東北新幹線、東北本線、奥羽本線)西口より徒歩3分交通アクセス:  
<http://www.corasse.com/category/access>

《第2日目》福島大学



「福島駅」よりJR東北本線「金谷川駅」下車 徒歩10分(の建物が行政政策学類棟)  
交通アクセス: <http://www.fukushima-u.ac.jp/global/access/index.html>  
キャンパスマップ: <http://www.fukushima-u.ac.jp/guidance/campusmap/index.html>